とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	大洋の子巣鴨駅前保育園
施設所在地	東京都豊島区巣鴨１丁目１４－８　中野ビル２．３階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

オリジナルジュースを作ろう

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

『ミックスジュース』の手遊びを好み、おままごとやお茶のみの際に「〇〇ジュース下さい」「はい、〇〇ジュース」と友だち同士で見立てていたりジュース遊びを好む姿が見られていた。実際にいろんな方法でジュースづくりに挑戦し、表現力、感性、見立てる力を養っていく。

２．活動スケジュール

【ジュース遊びを楽しむ】
４～6月：ままごとが好きな子が多く、友だちとやりとりを楽しんでいる姿があり、子どもたち同士で「作ってみたい」というやりとりがあったため保育者が画用紙を用意し子どもたちの現状や興味を探る。
6月：感触遊びを行うにあたり、感触遊びの参考資料を保育士で読みあい、基礎知識や理解を深めていった。
【絵具遊び、泡遊び、水遊びで感触を楽しむ】
7月2日：絵の具遊び→混色や色の変化を楽しみ好奇心を引き出す。
7月17日：氷遊び→感触を楽しみ、五感を高める
7月30日：泡遊び→感触を楽しむ。
8月1日：氷遊び→感触を楽しみ、五感を高める。
8月15日：色水、氷、泡遊び→混合させながら子どもたちの思い思いに自分の好きなジュース作りを行い考えを広げていった。
【ジュース屋さんごっこ】
9.10月：ままごとでお店屋さんごっこが流行る。画用紙を用いて子どもたちがどんなジュースを作るか一緒に考え様々なジュース屋さんごっこを行う。子どもたちが好きな絵本『へんしんへんしんフルーツポンチ』の絵本の裏表紙にバナナが「次はぼくも入れてね」と書いてあることから、ままごとでバナナジュースを作る子が増えた。遊んでいく中で保育者に「バナナジュースってどうやって作るの？」と聞く子がいた。『ぽぽくんのミックスジュース』の絵本を用いて、子どもたちと一緒に作り方を探求していった。後日、散歩時に果物店の前を通り子どもたちから「このバナナで作ったらいいんじゃない？」という声が上がったため、子どもたちとバナナを買いに行き、ジュースを作ることになった。
【バナナジュースづくり】
11月27日：散歩時に子どもたちとバナナジュース作りで使用するバナナを購入しに行く。
11月28日：バナナジュース作りを行う。自分たちで買ってきたバナナを使用し、栄養士と一緒につぶしたりミキサーのスイッチを押すなどの調理をする。調理後自分達で作ったジュースを飲みジュースはどうやって作られるのか振り返り、発信する。
【ジュース屋さんごっこ】　12月～：バナナジュースづくりを経験後、もう一度ジュース屋さんごっこをままごとで楽しむ。以前のごっこ遊びからどんな変化があったのか探っていき活動を振り返り、発信する。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

・ごっこ遊びでは、画用紙、セロハンテープ、ままごと用の皿、透明コップ、ままごとで使用するメニュー表を用意し、子どもたちのイメージを広げていけるようにしていった。扱いやすいように、画用紙は小さく切った状態のものを用意するようにした。
・絵の具遊びでは、絵の具、筆、皿、ペットボトル、を用意し、直接触って感触を楽しんだり、感触が苦手な子も触らなくても参加しやすい環境を作っていった。色の変化や混色を楽しめるよう様々な色を用意した。
・泡遊びでは、皿、ボディーソープ、スポンジ、コップを用意し、感触を触って楽しめる環境を用意した。
・氷遊びでは、氷、皿、お湯を用意し、前日から子どもたちと氷を仕込むようにし、次の日の活動に期待感をもてるようにしていった。また遊びの中で冷えすぎないようお湯を用意し温度の違いにも気付けるようにした。
・ジュースづくりでは、砂糖、牛乳、ミキサー、ボウル、コップを用意し、バナナを購入した。子どもたちの中でバナナジュースづくりが流行し、散歩時に「このバナナで作ったらいいんじゃない？」と子どもたちから発信があった。子どもたちと一緒にバナナを買いに行き、自分たちで買ったもので作って食べる楽しさを感じられた。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

①ままごとごっこ遊び：子どもたちの「作ってみたい」と言う発言から、画用紙を用いてちぎったり丸めたり子どもたちの想像したものを形に出来るようにした。　②絵の具遊び：ペットボトルを用いて色の変化を楽しんだり、好きな絵の具で自由に混色を楽しみ好奇心を引き出した。

③氷遊び：前日から子どもたちと一緒に氷を仕込み興味を持って行えるようにした。またお湯を用意し温度の違いに気づいたり、氷が解けていく様子を楽しんだ。

④泡遊び：保育者がスポンジを用いて泡を作る見本を見せてから行い子どもたちが自分で泡を作れるようにした。コップや皿も用意したことで子どもたちが泡をたくさん作り食べ物に見立てるなど発展していった。

⑤色水、氷、泡遊び：ポンプ容器に色水（三原色）を用意しコップの中に氷や色水、泡を入れ子どもたちが好きなようにオリジナルジュースを作れるようにした。色水の上に泡が乗ったり、氷の影響でジュースの嵩が増すことに不思議さを感じている子がいたりと大興奮で遊んでいた。

⑥お店屋さんごっこ：子どもたちと一緒にどうやったらジュースがままごとでもできるか考えた。コップ、画用紙という意見からプラスチックの透明のコップを用意し子どもたちが自分たちで試行錯誤しながらちぎったり、丸めたりしてジュースを作った。友だち同士でごっこ遊びに発展していった。子どもたちが好きな絵本『へんしんへんしんフルーツポンチ』の絵本の裏表紙にバナナが「次はぼくも入れてね」と書いてあることから、ままごとでバナナジュースを作る子が増えた。今まで画用紙で作っていたことから遊びの中で「バナナジュースってどうやって作るの？」と聞く子が出てきた。絵本『ポポくんのミックスジュース』にミキサーを使ったミックスジュースの作り方が書いてあり読んだところ、「ミキサーに入れると混ざるんだね」「ドロドロになるんだね」と絵本で作り方を探求していった。後日、散歩の際に果物店の前を通ると「このバナナで作ったらいいんじゃない？」という声が上がった。ジュースを作るにあたって、保育園にバナナがないかもしれないと子どもたちに話すと「買いに行かないとないよ！」「ここで買おう」と自分たちで買って作ることに期待感を持っていた。

⑦バナナジュースづくり：バナナジュースを子どもたちの発言から作ることになり、購入先の果実店まで下見に行った。「今度バナナを買いに来たいんですけど」と伝えると「バナナ５個で300円だよ」と店主に言われ「５と3必要だね」と子どもたちから発言があった。後日バナナジュースを作るにあたってお店でなんて言ったらバナナ買えるかな？と保育者からの質問に対し、子どもたちから「（お金）3個持って行かなくちゃね」「バナナ下さいじゃない？」「ありがとうもいったほうがいいとおもう」と発言があった。出発前、「買いに行くのでお金3個下さい」と園長の元へお金を貰いに行った。「これで買えるね」と実際にお金を貰い、より買いに行くことへの期待感が増していった。購入時には、子どもたちが自分たちで発言しバナナを購入した。翌日のバナナジュース作りでは、バナナと牛乳、砂糖を入れることを知り、どんな味になるのかな？と期待感を持って活動を行なっていた。ミキサーを使用する際には、ひとり1回ボタンを押し、近くで見れる環境にしたため混ざっている様子を驚きながら見ていたり、じっくり見るなど興味が広がっていった。作ったジュースはすぐの提供になり、前日に買いに行ったことを思い出している子もいた。作ったジュースを飲んでみると、「バナナの味がする！」「甘い味だね！」と味について話している子が多くいた。また「ドロドロしたジュースだね」と食感について話している子もいた。作ってすぐの提供だった為、「冷たくておいしいね！」といいながら、飲んでいる子が多かった。保護者が迎えに来た時に「牛乳と砂糖とバナナでジュース作れるんだよ」と経験から伝えている様子も見られた。

⑧ジュース屋さんごっこ：実際にバナナジュースづくりを経験し、もう一度ままごとでジュース屋さんごっこを楽しんでいった。ミキサーを使用した経験から遊びの中でミキサーが登場し、遊びを発展させていた。またバナナジュースはバナナだけでできていないという経験から、果物だけでなく、水やスープ、牛乳も入れてみよう！という発言に繋がっていった。そのため保育者が画用紙を４分の１の大きさのものを常に用意し、子ども達が好きなタイミングでジュースを作れるようにした。どうやったらいいかな？何を入れたらいいかな？を自分で考えて実践し、画用紙を果物や食べ物に見立てちぎったり、丸めてみたりという姿につながっていった。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

ままごとが好きな子が多く特にジュース屋さんが流行っていた。絵本や手遊びでも果物やジュースに興味を持ち、遊んでいる様子が見られていた。夏の期間に絵の具遊びや泡遊び、氷遊びを行なった際に、氷や泡遊びの際には透明なコップを用意したり、ペットボトルのジュースづくりでは自分でペットボトルを振りジュースを作ったことでより興味がわいていった。ペットボトルのジュースづくりでは三原色を用意し、色を混ぜたことで「赤と青混ぜたらぶどうジュースになったね」と色を見てジュースに見立てる姿も見られた。泡、色水、氷遊びの際には子どもたちが色を混ぜたり、トッピングとして泡を用いてオリジナルジュースを作った。「赤だからイチゴのジュースだよ」「メロンソーダみたいにあわあわのせてみようかな」と子どもたちが自分で考えジュースを作る機会になった。その経験を活かし、おままごとでも自分でジュース作らない？と保育者から提案し、水は使えないからどうやったらいいかな？と子どもたちと一緒に考えた結果「画用紙がいいと思う」と自分たちで画用紙で見立てられるようになった。

バナナジュースづくりでは、前日から使用するバナナを自分たちで買いに行ったことでより興味が深まっていった。子どもたちになんて言ったら買えるのか意見を聞いたことで、自分で考えて発言する子がいた。子どもたちの発言を全体に共有したことで自分の意見を持てなかった子も友だちの言葉を聞いて発言できるように変わった。購入前の道中では、子どもたち同士で「バナナ下さいだよね」「お金は３だね（300円）」と楽しみにしながら向かっていた。ジュースづくり当日には前日の活動を思い出しながら行い、ジュースはどうやって作るのかな？どんな味になるのかな？と疑問を持ちながら行っていた。栄養士がバナナ以外に、牛乳や砂糖を持ってきていたことから「バナナだけでは作れないんだって」という気づきが生まれた。ミキサーを使用する時には、他児がスイッチを押している時は、近くで見られるようにしたことで混ぜていることに気づいていた。実際に作ったバナナジュースを飲む時には、「バナナの味がする！」「甘い味がする！」と味について話している子が多く、食感は「ドロドロしたジュースだね！」と話している子がいた。前日に自分たちで購入し作ったことを思い出し達成感を感じやり切っている表情をしている子が多くいた。　バナナジュースづくり後のままごと遊びでは、ジュースづくりの際に経験したミキサーが遊びの中に出てきたり、ジュースを作るのにも果物以外のものを入れる姿に変わっていった。画用紙を４分の１の大きさのものを常に用意してあったことで、子ども達が好きなタイミングでジュースを作れるようにした。どうやったらいいかな？を自分で考えて実践し、ちぎったり、丸めてみたりという姿につながっていった。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

取り組み前の子どもたちの姿は、そのものの素材は使えるが、見立てたりの発想が弱かった。
夏の時期に行なった感触遊びでは、コップを用意したことで子どもたちが自らジュースに見立てていた。入れ物として用意したつもりではあったため子どもたちの発想力に驚いた。子どもたちの興味に合わせた環境や素材を提供する大切さを再認識した。また、やり方や遊び方を特に指定しないで子どもたちの好きなように行う環境にしたため子どもたちが自分で考えて活動し、見つけた発見を保育者や友だちに伝えている姿に繋がった。保育者がすべて環境を提供するのではなく、子どもたちからの発想や想像を大事にしそれをヒントに遊びを展開したり広げていきたい。
散歩時に見つけたバナナをみて「このバナナでジュースを作ったらいいんじゃない？」という発言から子ども達と一緒にバナナジュースを作る計画を立てていった。やってみたい！という気持ちから目を輝かせながら、どうやって作るのか想像し発言をしている姿であった。バナナジュース当日には、栄養士がバナナ以外にも牛乳や砂糖を用意していたことで「バナナだけでは作れないんだって」という発言も聞こえてきた。初めてミキサーを見る子が多く、混ざっていく様子を近くで観察して見ている子が多かった。イメージ遊びから本物のジュースに繋げたことで子ども達の発見や気づきも多く、その後のごっこ遊びにも経験が反映されていった。子どもたちのイメージ遊びを本物に触れていくことで遊びが広がったり、想像力も育まれたように感じた。
感触遊びや遊びの中で子どもの意見を聞きながら行ってきたこともあり見立てる力が付き、子どもたちが自分で考えた事、やりたいことを保育者に積極的に言えるようなってきた。この姿を伸ばしていけるように今後も子どもたちの声に耳を傾けながら活動を組み立てるようにしていきたい。また、やってみたいと子どもたちが思ったことに対して、出来る限り環境を整え追求できる雰囲気や環境を用意していけるようにする。